

コンテンツ スイッチング モジュールのプロープの通常終了

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[関連製品](#)

[表記法](#)

[CSM プロープ](#)

[CSM プロープ 動作](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、コンテンツ スイッチング モジュール (CSM) プロープの通常終了について説明します。

BEA™ Weblogic server (BEA) はリソースを使い果たし、プロープのリセット (RST) フラグを処理できません。 CSM はリソースを使い果たし、プロープの完了 (FIN) フラグを使用できません。 BEA が CSM が設計し直されなければ、この問題のための解決がありません。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- CSM
- Catalyst 6500
- MSFC

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

[関連製品](#)

このドキュメントは、次のバージョンのハードウェアとソフトウェアにも使用できます。

- Supervisor 720
- 7600

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

[CSM プローブ](#)

CSM はプローブの 2 つの型をサポートします:

- 内部 プローブ—これらは TCP プローブのための RST を送信するコードでコンパイルされます。ユーザはこの動作を変更できません。
- スクリプトがあるプローブ—これらはユーザが書いている Toolkit Command Language (TCL) スクリプトです。ユーザは CSM にダウンロードされるべき外部スクリプトファイルを規定します。CSM リリース 3.1(3) にはじまって、ユーザは RST の代わりに FIN を送信するためにこれらのスクリプトプローブを修正できます。

注意書きはこれらのプローブがプローブ比率が余りにファーストである場合 CSM リソースを使い果たす `TIMWAIT` ステータスに (FIN を使用して) ソケットを入れることです。この変更のための原因は当然 CSM の OS プラットフォームの限られたソケットリソースです。CSM で同時に開くことができるたった 250 のソケットがあります。リセットのソケットを閉じることができます:

- ソケットリソースをより速く開放して下さい
- プローブ失敗エラーメッセージを防がないで下さい

[CSM は動作を厳密に調べます](#)

デフォルトで、RST の CSM 終わりから送信されるプローブ; これは CSM がリソースをどのように使用するか変更されなかった原因ではありません。CSM は FIN と速くなくなります。代わりに FIN を送信するのに修正された TCL スクリプトを使用する必要がありますがソケットリソースを使い果たすことを危険にさらします。

[関連情報](#)

- [CSM の TCL スクリプトの使用](#)
- [コンテンツ スイッチング モジュールの設定](#)
- [コンテンツ スイッチング モジュール ハードウェアに関するサポート](#)
- [Cisco Cat 6000 他のインテリジェントモジュール SW ダウンロード](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)